



郡山城



郡山城へのアクセス



【所在地】 広島県安芸高田市吉田町吉田

◆安芸高田市歴史民俗博物館より本丸跡まで徒歩約45分

<歴史民俗博物館までの交通経路>

- 自動車 中国道高田ICより 約15分
※P 駐車場無料
- バス 広島バスセンターより 約1時間30分
「安芸高田市役所前」下車 徒歩約5分
- JR 芸備線向原駅下車 タクシー 約15分
可部線可部駅下車 バス 約50分

<問い合わせ先>

- ・安芸高田市歴史民俗博物館 0826-42-0070
- ・安芸高田市商工観光課 0826-47-4024

<ガイドのお申込み先>

- ・郡山城史跡ガイド協会 0826-47-2550
(事務局：一般社団法人安芸高田市観光協会)

郡山城とその歴史

戦国武将毛利元就の居城として知られる郡山城は、吉田盆地を見渡す可愛川と多治比川の合流点の北側に築かれ、戦国期最大級(東西1.1km、南北0.9km)の山城です。

歴史

築城の時期は不明ですが、城内にあった満願寺や祇園社(今の清神社)などは築城以前から建立されており、15世紀後半には毛利氏の城として存在したようです。当初は「本城」とよばれた東南の尾根上が城の中心で、元就が台頭した16世紀中頃に郡山全山を城郭化したといわれています。その後、輝元時代に広島城へ本拠が移り、さらに関ヶ原合戦後の国替えにより廃城となりました。

構造

山上部(城)と山麓部(里)で構成されています。山上部は山頂(標高390m、比高190m)にある本丸を中心として放射状に270ヶ所以上の郭が築かれています。本丸、二の丸、三の丸などの中心部は「燈」と呼ばれ、元就や輝元が住んでいました。ここには石垣の跡や瓦の断片が確認されたことなどから、輝元時代の16世紀終盤に大幅な改修が施されたようです。また、勢溜の壇、厩の壇、釜屋の壇、姫の丸など中心部を取り囲む各尾根上には、家臣居住区と思われる郭群が形成されています。一方、本城は戦国初期の形態を残しているといわれ、大規模な石垣や瓦は見つかっていません。さらに山麓部には城内外を区画する内堀が巡っていたことが判明しています。

郡山城周辺の見どころI

◆興禅寺跡(郡山公園)⑩

この一帯は興禅寺跡で、この寺の南麓に内堀が掘られた記録が残る。境内では元就の招きにより能狂言も行われた。現在は桜や紅葉が美しい公園として知られる。



◆清神社⑪

正中2(1325)年から残る棟札があり、それ以前の創建が確実な古社。戦国時代は郡山の鎮守社として毛利氏の祈願所となった。



◆三矢の訓跡碑(御里屋敷伝承地)⑫

「三本の矢」の伝説を記念した石碑。旧少年自然の家の敷地内に建っている。一帯は元就の居館御里屋敷跡との伝承もある。



◆元就火葬場伝承地⑬

元就の死後、初7日の法会后に、竹原妙法寺(現在の西方寺)の住持嘯岳鼎虎禪師を導師に火葬された。



毛利氏関係スポット

◆多治比猿掛城跡・毛利弘元墓所<国史跡>

毛利弘元が隠居後元就と移り住んだ城。巨大な堀切など多くの遺構がよく残る。山麓には弘元墓所もある。



◆青山城跡・光井山城跡<市史跡>

郡山合戦時に風越山城を本陣とした尼子氏が郡山城に対峙して築いた陣城。両城とも4ヶ月間の使用とは思えない多数の郭群が全山に渡り築かれている。



左：青山城 右：光井山城

◆宮崎神社<市史跡>

毛利氏の氏神として歴代の当主に崇拜されてきた。玉殿を始め毛利氏時代の文化財が多く残る。霊石「鏡石」は「川通り餅」のルーツとして伝わっている。



◆安芸高田市歴史民俗博物館

(百名城スタンプ設置所) 毛利氏や郡山城に関する貴重な資料が豊富に展示され、映像や模型などでわかりやすく学べる。特に清神社棟札など中世の寺社奉納品は必見。



郡山城関係年表

西暦	年号	記事
	奈良時代	満願寺創建(伝承)「郡山」の由来となった高宮郡衙が南麓に存在
1336	建武3	毛利時親、吉田荘に下る
1352	文和元	毛利元春、「吉田城」に籠るも城は破却される(場所は不明)
1371-74	応安4~7	毛利親衡書状、宛名は「郡山殿」(誰を指すかは不明)
1497	明応6	毛利元就誕生。明応9年、元就多治比猿掛城へ移る
1523	大永3	興元の長男幸松丸(9歳)死去。元就、毛利家を相続し郡山入城(「郡山城」の初見)
1540	天文9	尼子氏、大軍で吉田に侵攻(郡山合戦)
1551	天文20	この頃、南麓に堀が設けられる
1563	永禄6	隆元急死、元就が輝元を後見。翌年、菩提寺常栄寺建立
1571	元龜2	6月毛利元就死去。大通院にて葬儀
1572	元龜3	元就の菩提寺洞春寺建立
1584	天正12	輝元、郡山城の修築、城下の整備を指示
1589	天正17	輝元広島築城工事開始。天正19年、輝元広島入城
1592-96	文禄	小早川隆景、穂田元清ら吉田で参会。郡山城は存続
1600	慶長5	関ヶ原合戦)毛利氏、防長2ヶ国に減封。福島正則、安芸入部
1631	寛永8	郡山が広島藩(浅野藩)の管理する御建山となる
1637	寛永14	島原の乱。以後全国の古城が破却され、郡山城の石垣も破却か
1816	文化13	萩藩士武田泰信、姫の丸壇で「百万一心」石を発見、拓本にとり持ち帰る
1863	文久3	郡山麓に広島吉田支藩屋敷を建設、浅野長厚移住
1940	昭和15	郡山城跡、国史跡に指定
1988	昭和63	猿掛城跡を追加指定し、「毛利氏城跡」とする
1997	平成9	元就生誕500年。NHK大河ドラマ「毛利元就」放映
2006	平成18	(財)日本城郭協会により日本百名城に選ばれる

郡山城周辺の見どころII

◆毛利隆元墓所(常栄寺跡)⑭

永禄6(1563)年、隆元は41歳で佐々部(安芸高田市高宮町)にて急死した。翌年菩提寺常栄寺が建立され、後に山口に移転した。



◆大通院谷遺跡・薬研堀⑮

砂防工事に伴う発掘調査で、郡山城西端の約100mもの薬研堀、石塁を伴う屋敷跡などの遺構や大量の遺物が検出された。全山城郭化後のものとみられる。



◆百万一心碑⑯

元就の「百万一心」の伝説を記念して、昭和6年に石碑が元就墓所境内に建立された。共同一致の精神を示す。



◆毛利元就・一族墓所(洞春寺跡)⑰

元龜2(1571)年、元就は75歳の生涯を閉じた。翌年菩提寺洞春寺が建立され、境内に墓が建てられた。下段には、先祖の合墓と、元就の兄興元、興元の長子幸松丸、隆元夫人の墓が並ぶ。



毛利元就とその伝説

◆毛利元就(1497~1571)

安芸国の国人領主であった毛利氏を一代で西日本最大の戦国大名へと上げた毛利元就は、その名を広く知られています。明応6(1497)年父弘元の次男として誕生後、猿掛城で青年期を過ごしましたが兄興元とその子幸松丸の相次ぐ死去により27歳で家督を相続します。以後、大内氏と尼子氏の勢力圏の狭間で巧みな調略を用いて次第に安芸の盟主となります。弘治元(1555)年厳島合戦で、周防の陶氏を破り戦国大名へと成長し、永禄9(1566)年、尼子氏を降伏させ中国一円を支配下におさめました。元龜2(1571)年、生涯本拠地とした郡山城において75歳で死去。現在では小説、ゲームやアニメなどでも取り上げられ、高い人気を得ています。

◆「三矢の訓え」

「一本の矢はたやすく折れるが、三本束にすれば折りがたい」と、元就が一族の結束を説いた有名な逸話です。初見は江戸時代の書物で真偽は不明ですが、元就の人柄を象徴するエピソードとして定着しています。子供達に送った「三子教訓状」がそのルーツとも言われています。

◆「百万一心」

郡山城の改修に際して、元就が人柱に代わり「百万一心」と彫った石を埋めさせると工事がうまくいった、という伝説です。その後幕末に長州藩士が山中で実物を発見したと自書していますが、現在に至ってもその石は未発見のままで、郡山城最大の謎となっています。 ※文中の人物年齢は数え年としています

国指定史跡 郡山城跡

①本丸及び櫓台



元就による拡張後の中心地。城主の屋敷があったと思われる、北端の山頂部には櫓台が残る

②三の丸の石塁



中心部は輝元時代の改修により整備され、三の丸は石塁により3つに区切られている

③三の丸下通路の石垣跡



石が散乱しているが、三の丸に入る大手道に当たり、僅かに立石も残る

④釣井の壇の井戸跡



現在は枯れているが、城内に残る石組の井戸としては唯一のもの

⑤姫の丸 (百万一心石伝承地)



本丸の北の要所。幕末に長州藩士武田泰信がこの郭で百万一心石を発見したと伝わる

⑥御蔵屋敷跡



勢溜の壇と釣井の壇を繋ぐ郭。幕末により江戸初期に崩された石垣がそのまま残る

⑦満願寺跡の石組の池跡



築城以前から存在する寺院跡。2ヶ所ある石組の方形の蓮池や寺の礎石などが残る

⑧尾崎丸の堀切



尾崎丸は隆元が本城から移り住んだと伝わる。長大な郭の背後を堀切っている

⑨本城の本丸



西端に櫓台があり、背後は谷を堀切っている。築城時の中心で、一時隆元が居住した



- 凡例
- 旧道
 - 登城ルート
 - 展望ポイント
 - 駐車場
 - お手洗い